公益財団法人
京都府国際センター
Kyoto Prefectural International Center

NEWS

Vol.95
2022年 春号

目次

■令和3年度をふりかえって ～京都府国際センター活動報告～ …… 1～2
■<京田辺市> 外国人住民への食料支援と生活相談 …………………… 3
■困ったことがあったら、京都府多言語生活相談窓口へ! ………………… 4
■京都府国際センターからのお知らせ ……………………………… 4

令和3年度をふりかえって ～京都府国際センター活動報告～

日本語学習支援　オンライン日本語教室の取り組み

当センターでは、地域日本語教室のモデル事業として、入門・初級レベルの方を対象に日本語教室を実施しています。
新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン授業を導入してからこの3月で1年半が経ちました。
各クラスの定員は10名で、数名の講師（主担当と補助者）で指導しています。

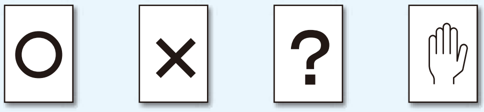
オンライン授業の一番のメリットは、「どこからでも参加できること」。これまで遠くて通うことができなかった京都府の北中部（福知山市や亀岡市）の方も参加できるようになりました。そのほか「育児中の主婦も気軽に参加できる」「悪天候のときでも休講の心配がない」「通学時間や交通費がかからない」などのメリットがあります。

デメリットとしては、「学習者同士で雑談する時間がなく、横のつながりができにくい」といったことのほか、「学習者の手元が見えないため、それぞれの学習者の習熟の度合いが測りにくい」といった講師側の悩みもあります。

Zoomによる警察との交通安全教室の様子

そこで、センターではこんな工夫をしてみました!

■4種類の「コミュニケーションカード」で学習者の反応を確認



はい　いいえ　質問があります　私が答えます

■宿題のページの写真をスマホで撮影してメールで送ってもらい、講師が添削して返信

■授業後、講師が画面から姿を消し、学習者たちだけで自由に話してもらう時間を設定

今後もオンラインの利点を生かしつつ、講師の先生方とともに工夫を重ねていきたいと考えています。

京都府日本語教室ネットワーク会議を開催

12月8日（北中部）、2月2日（南部）

京都府と当センターの主催により、府北中部会議（綾部市）と南部会議（オンライン）をそれぞれ開催し、合わせて10市町、18教室が参加しました。南部では初めての開催となり、教室活動を中心に各地域の現状を共有しました。この会議を通じて、行政と日本語教室が連携して地域日本語教育の体制整備が進むよう取り組んでいきます。

日本語教室マップを改訂しました!

府内の新しい教室を追加し、ベトナム語版も加わりました。

www.kpic.or.jp/nihongo/kyoshitsumap.html

子どもの教育支援

外国につながりをもつ子どもの居場所づくり

八幡市での取り組み　イージー ランゲージ ジャパニーズ

2020年6月、八幡市にあるモスクを無料でお借りして、日本語教育に関心のある大学院生と2人で外国にルーツをもつ子どもの日本語学習支援活動を始めました。最初は、学習者が16歳の高校生1人だったため、その高校生に「友達も一緒に来ていいよ」と伝えると、一緒に現れたのは数名の大人。こちらの想像していた「友達」ではない、大人の方が多い状況は活動の趣旨とは少し異なりましたが、高校生が楽しく勉強ができればいいのでそれも良しとしました。「イージー ランゲージ ジャパニーズ」という団体名は、その高校生が大学院生と一緒に考えてくれたものです。

活動チラシ（高校生作成）

学習内容については、高校生は学校の課題、PCを使ったこの活動のチラシづくり、興味あるテーマの本の読解などでした。大人は運転免許証に出てくる漢字の学習、テキストを使った会話練習、冬場の寒い時は使い捨てカイロの説明など、日本語のレベルや生活の関心事に合わせた対応をしました。

それから1年後、モスクが工事中ということもあり、活動場所を移すことになりました。2021年6月からは、男山団地の集会所「だんだんテラス」をお借りしています。最近は、ご近所の方もボランティアとして参加してくださるようになり心強いです。

複数言語の環境で育つ子どもの言語の発達は、モノリンガル（１つの言語を使う）の子どもに比べて非常に複雑だと感じます。子どもの育つ家庭環境も、日本人との国際結婚のご家庭、家族全員が外国人のご家庭、家族全員、国籍や得意な言語が異なるご家庭等様々です。子どもの母語と日本語の発達度合いも一様ではありません。

家庭ではなく、学校でもない、ご近所さんとして近くに住む私たちが、子どもたちにできることはとてもささやかですが、地域で子どもの成長を見守る存在として、またこの活動も地域の方に見守っていただきながら、細く長く続けていければと思っています。

災害時支援

外国人住民を含めた地域の防災力

当センターでは、府内市町村・国際化協会等と連携し、災害時外国人支援の「体制」を整えるために防災研修を実施しておりますが、今年度は特に平時からの「外国人住民と地域に住む日本人の交流」をテーマに、新しい取り組みを始めました。

今年度の研修の特徴は、外国人向け防災研修に日本人参加者を募ったところにあります。綾部市の研修では、参加者の日本人と外国人が一緒になり、ハザードマップを用いて近所の危険な場所や避難所の確認をするグループワークを行い、同じ地域に住んでいる住民同士の交流の場を創出しました。また、亀岡市で開催された「亀岡市防災フェスタ」にも主に亀岡市域在住の外国人住民の方々への参加を募り、実際の避難訓練に参加してもらうとともに、綾部市同様、日本人との合同防災研修を実施することができました。

こうした交流や相互理解の積み重ねが「顔の見える関係」づくりにつながり、災害時の思いやりや助け合いの輪が広がることで地域の防災力が高まります。
今後も粘り強くより多くの地域で防災講座を通じて「交流」の場を創出していけるよう努めていきます。

綾部市で行われた合同の防災研修の様子

府内市町村の取り組み

京田辺市　外国人住民への食料支援と生活相談

2021年12月26日、新田辺駅東のキララ商店街にて、コロナ禍で生活に困っている外国人住民を支援するイベントが行われました。このイベントを企画した京田辺国際交流協会の林 敢太さんにお話を伺いました。

――今回のイベントを開催されたきっかけは？

コロナの状況下、日本人でも生活に困っている人がいるのだから、経済的に弱い立場に置かれやすい外国人ならもっと困っている人は多いだろうと思い、企画しました。
当初はフードバンクの活用を考えていましたが、京都府の「地域交響プロジェクト交付金（※右下参照）・府民に寄り添った地域活動緊急支援事業」が実施されることを知り、交付金を使って食料品や生活物資の配布を行いました。

――参加された外国人住民の方々の反応は？

事前申込された方のうち、中国やフィリピンなど50名ほどの方が受け取りに来られました。コロナで仕事が減ったりなくなったりで大変な方が多く、とても喜ばれていました。

――地域住民の方々の理解や協力を得るために工夫されたことは？

空き店舗を「食料支援」と「生活相談」のコーナーとして向い同士で借り、人の流れを作ることができました。
また商店街にあるスーパーから米やパスタなどの支援物資を購入し、商店街の中でお金を回し、事業についても知ってもらうことができました。

――食料支援と市主催の生活相談を同時開催されたことによる相乗効果は？

市の市民参画課では多文化共生(外国人向け生活相談)に取り組んでいますが、なかなか相談に来られる方がいないと聞いていたので、食料支援なら確実に外国人が集まるよい機会と考え、担当者に持ちかけました。
相談対応は、市から京都ＹＷＣＡに直接依頼し、実現しました。相談以外にもＹＷＣＡの担当者と外国人の方が話をする機会があり、相談事業のＰＲや関係作りができたと思います。「相談まではいかないけど困っている」という段階での対応、聞ける関係を作ることが必要だと思いました。

――外国人住民への生活支援の課題や、今後の取り組みについて教えてください。

反省点・問題点としては、チラシの配布先が難しく、協会員の個人的な情報に頼るしかなかったこと。ポスティングもしましたが、いきなりポストに「食料あげます」などと入っていても怪しいと思われるのか、反応は少なかったです。困っている人はもっと多くいるかとは思いますが、見つけることが難しいです。
今後については未定ですが、継続して事業ができると信用も関係性もでき、いい事業になっていくと思います。

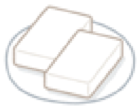
配布されたもの

食料品

米

パスタ

小麦粉

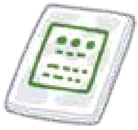

切り餅

ハム

レトルトカレー

※宗教や体質などから食べられないものがある場合は申込時に確認し、代替品も準備（今回は該当者なし）

生活用品


ゴミ袋

マスク

食器用洗剤

※「地域交響プロジェクト交付金」

地域社会の課題解決に取り組む非営利団体を対象にした交付金（交付率：京都市以外２/３、京都市域１/３）。
「多文化共生」は重要課題の一つとして重点課題対応プログラムに指定されている。

（参考）京都府「地域交響プロジェクト」
www.pref.kyoto.jp/chiikikokyo/

困ったことがあったら、京都府多言語生活相談窓口へ！

2021年もコロナ禍の年となりました。
昨年度はコロナでの急激な生活変化の中で、コロナ感染症についての質問、帰国困難、解雇、生活支援等の相談が多く寄せられました。今年度はコロナ禍で日常生活を進める中、今後に向けての相談も増えてきました。

感染者数が激増した夏は、「コロナに罹っているのではないか」「自分は濃厚接触者ではないか」「PCR検査をどこで受けたらいいか」といった相談が一気に増えました。またワクチン接種が始まると、接種に関する質問も多く寄せられました。ある外国人住民からの相談は、「職場から3日後に職域接種を受けるよう言われたが、接種券を失くしてしまった」というものでした。通訳電話を使い、3者通話（相談者、当センター、通訳コールセンター）からワクチン接種担当部署に問い合わせ、4者通話で対応し、無事、接種券の再発行の手続きをすることができました。

感染者数が落ち着いてきた秋以降は、コロナ関連の相談に加え、就職や転職、在留資格についての問い合わせや住まいのトラブル、医療通訳など様々な相談が寄せられています。日本語学習についての問い合わせも多くあります。最近は「仕事のために日本語をもっと勉強したい」といった、はっきりとした目的を持った方が多いです。
皆様の一層のご利用をお待ちしています。

京都府多言語生活相談（22言語）

電話、来所、メール（日･英のみ）での相談に対応

専用電話：075-343-9666（通話料はかかります）
受付時間：10:00〜17:00（休館日を除く）
メ ー ル：soudan@kpic.or.jp

在住ウクライナ人の方々を支援するため、専用窓口を開設しました。

京都府国際センターからのお知らせ

- **4月から毎週火曜日が休館日になります** 変更後の休館日：毎週火曜日、祝日、年末年始（12月29日〜1月3日）
- **今秋 事務所が移転します** 2022年10月頃、**京都テルサ東館3階**（京都市南区東九条下殿田町70番地）へ移転します。移転日等の詳細は改めてHPでご案内します。

〜賛助会員を募集しています〜

当センターが実施する様々な地域国際化事業や団体運営の財源に充てるため、趣旨にご賛同いただける皆さまを対象に賛助会員を募集しています。

【会　費】**個人会員／年額　1口　3,000円**
団体会員／年額　1口　10,000円

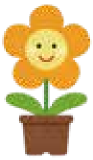
【特　典】
- センター情報誌など定期刊行物の送付
- 当センター主催の各種講座等への優先参加
- 当センター内の有料スペースを会員料金で利用可能
- 他団体との提携による会員特典

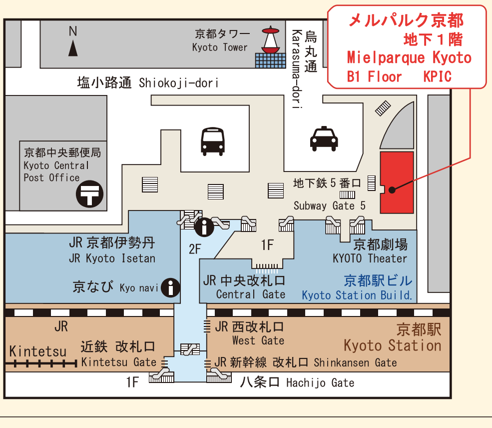
入会方法など詳しいことはHPをご覧ください。
www.kpic.or.jp/about/sanjo.html

〜寄付金のお願い〜

皆さまから寄せられた寄付金は、様々な地域国際化事業、団体運営に充ててまいります。
当センターへの寄付金は、法人の場合は損金扱い、個人の場合は寄付金控除の対象となる税制上の優遇措置があります。

詳しくは当センター総務課まで、
電話またはメールでお尋ねください。
皆さまのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。





公益財団法人京都府国際センター

〒600-8216 京都市下京区東塩小路町676-13 メルパルク京都B1F（JR京都駅前 北口東側（京都劇場側））

Tel：075-342-5000
Fax：075-342-5050　E-mail：main@kpic.or.jp
www.kpic.or.jp/
facebook www.facebook.com/kpic.kyoto

開館時間／午前10時〜午後6時
休館日／毎週火曜日（4月から）、祝日、年末年始（12/29 〜 1/3）

公益財団法人京都府国際センター NEWS Spring 2022 春号 第95号
編集・発行／公益財団法人 京都府国際センター　Kyoto Prefectural International Center
PRINTED WITH SOY INK